

「自殺しようかと思うぐらい悩んだ。 それぐらい差別というのはつらい」

孫正義

俺は小学生、中学生の時に自殺したいぐらい悩んだんだ。

本気で自殺しようかと思ったぐらい悩んだ。

それぐらい差別、人間に対する差別というのは、つらいものがあるのよ。

そうやってつらい思いをしている在日の子供たちに対して、1人でもいいから自分の先祖代々の名前を堂々と名乗って、様々なハンディキャップがあったとしてもそれでもね、それなりにやれるんだという事例を一つ示したいと考えたから。

それで希望を得る若者が1人でも100人でも出れば、それは「差別反対」と言って、何かプラカードを出して言うよりも100万倍効果がある。

差別反対なんて言わなくたって、孫と堂々と名乗って、堂々と逆風の中で仕事して、事業して、それなりになればそれはもう100万語しゃべるより、力説するより、そういう青少年に希望を与えられるんじゃないかと思って俺はあえて名乗った。

親戚からは猛反対されたよ。だって小さな社会の中で名前を隠して生きているんだから。

「おまえが親戚として1人そうやって孫と名乗ったら、俺らまで全部ばれる」と。

「何だ在日だったのか。在日韓国人だったのか。

親戚のおいとか言われて一緒におったな、あれ、孫か。 あれ、安本じゃなかったの、えっ、そうか、おまえはキムチ組か」と言われるだけで、おじさんおばさんにとっては迷惑なのよ。
止められたんだよ。

それでも俺は、「おじさんやおばさんに俺は迷惑かけるかもしれん。

そしたら、俺が親戚だとは言わないでいい、他人のふりしていい」と言った。